

熊本地震における 国立大学施設の被害状況について

1. 国立大学施設の被害状況の概要

◆被害を受けた施設

- ・ 国立大学: 9法人、高等専門学校: 4校

九州大学、福岡教育大学、佐賀大学、長崎大学、九州工業大学、熊本大学、京都大学、大分大学、宮崎大学、有明工業高等専門学校、佐世保工業高等専門学校、熊本高等専門学校、大分工業高等専門学校

【参考】耐震化の状況(平成27年5月1日現在)

九州大学(90.6%)、福岡教育大学(94.2%)、佐賀大学(81.5%)、長崎大学(97.1%)、九州工業大学(99.4%)、熊本大学(96.4%)、京都大学(98.6%)、大分大学(92.1%)、宮崎大学(100%)、有明工業高等専門学校(100%)、佐世保工業高等専門学校(100%)、熊本高等専門学校(100%)、大分工業高等専門学校(100%) ※全国平均: 96.4%

◆被害の概要

- ・ 学校施設本体が崩壊するといった被害は無く、これまでの耐震化の成果と考えられる。
- ・ 他方、天井の落下、内壁の倒壊、ガラス・配管等の破損、外壁等のひび割れ等が発生。
- ・ 熊本大学附属病院については、周辺の公共ライフラインの被害により、大学病院への水・ガスの供給が停止し、医療継続が困難な状況に陥った。(飲食・医療用水の不足、滅菌装置の停止(ガス))

【参考】熊本大学附属病院の医療活動

- ・ 被災した救急患者の受入れ(4月27日まで計567名)
- ・ 熊本県内の医療継続困難となった病院から重症患者等の受入れ(4月20日まで計101名)
- ・ トリアージの実施

※水は11日後(4/25)、ガスは6日後(4/20)に復旧

2. 国立大学施設の被害状況

＜内壁の倒壊＞



京都大学 火山研究センター(南阿蘇村)

＜天井材の落下＞



九州大学 産学官連携イノベーションプラザ

＜天井材の落下、内壁の倒壊＞



熊本大学 附属小学校

3. 熊本大学附属病院の被害状況

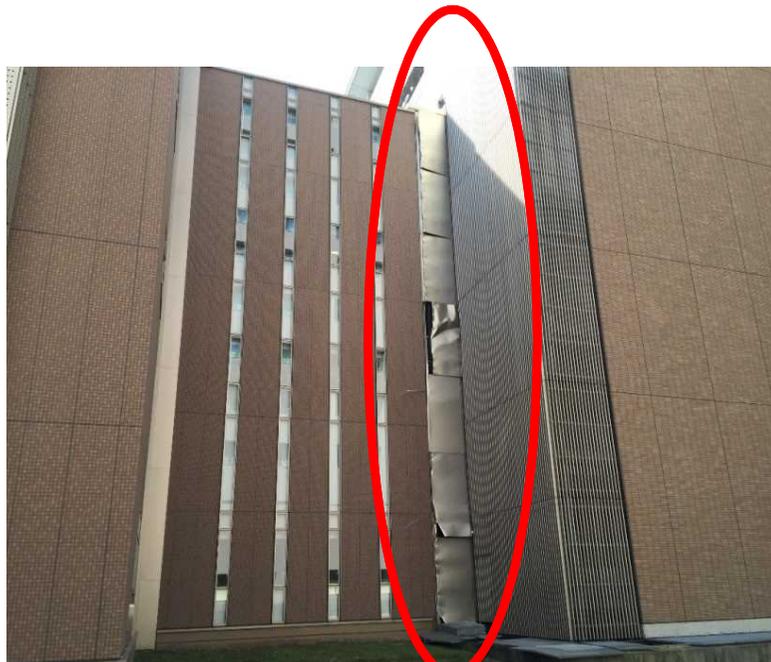
< 渡り廊下エキスパンションジョイントの破損状況 >



< 救急患者の受入れ状況 >



< トリアージの実施状況 >



熊本大学附属病院

熊本大学附属病院

4. 避難所としての熊本大学の活用状況

- 国立大学法人熊本大学では地震後、避難所に指定されていない4キャンパスの施設を避難所として開設し、4月14日～5月8日まで1日最大2,800人の避難者を受入れた。

受入れ施設：黒髪キャンパス（全学教育棟，黒髪体育館，黒髪運動場），大江キャンパス（大江体育館），本荘キャンパス（本荘体育館），京町キャンパス（附属小中学校校舎・体育館）

<熊本大学における避難所運営>

- 避難所においては，大学職員を中心に学生ボランティアも多数参画し運営。また，留学生ボランティアにより外国人避難者への対応も実施。
- 保健センター等の教職員（医師，看護師，臨床心理士）による救護所の運営により，避難者の健康に配慮。



避難者受入れ状況



学生・留学生による炊き出し



救護所(健康相談)の開設

※ 避難所は設備の充実(トイレ，水道，シャワー)により快適性を確保

5. 各大学からの熊本大学への支援の状況

<建物の被災調査>

- 全国各地の32の国立大学法人等※からのべ507人の職員派遣の支援を受けて、建物の被災調査を実施。

※北海道大学、東北大学、群馬大学、千葉大学、東京大学、東京医科歯科大学、東京学芸大学、横浜国立大学、高エネルギー加速器研究機構、新潟大学、信州大学、金沢大学、岐阜大学、名古屋大学、三重大学、京都大学、大阪大学、神戸大学、鳥取大学、島根大学、広島大学、岡山大学、山口大学、香川大学、愛媛大学、九州大学、佐賀大学、長崎大学、大分大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学（順不同）

<避難所の運営>

- 九州大学を窓口として、9大学（九州大学、長崎大学、佐賀大学、鹿児島大学、山口大学、九州工業大学、宮崎大学、山梨大学、奈良先端科学技術大学院大学）から水、食料、毛布等の支援を受けて、避難所運営を継続。

<大学病院の運営>

- 医療スタッフ及び職員の食料が不足したため、6大学（九州大学、佐賀大学、宮崎大学、長崎大学、大分大学、鹿児島大学）から支援を受け、医療活動を継続。